

オオヒシクイの生息環境に配慮した高速道路建設事業についての報告

東日本高速道路（株） 正会員 ○岡崎 啓一朗
 東日本高速道路（株） 正会員 高久 英彰
 （株）福山コンサルタント 岩上 木綿子
 （株）福山コンサルタント 白土 智子

1. はじめに

現在、首都圏中央連絡自動車道（以下、圏央道）は、久喜白岡 JCT～大栄 JCT 間(92km)の四車線化事業に着手している。このうち茨城県稲敷市を通過する区間（稲敷 IC～稲敷東 IC）については北へ約 2km 離れた箇所に、国指定天然記念物「オオヒシクイ」の関東唯一の越冬渡来地である稲波干拓地（以下、稲波地区）が存在している。

当該区間は、平成 26 年度に暫定 2 車線による供用（以下、I 期線）が開始されている。

オオヒシクイについては、平成 5 年度に専門家らで構成された委員会が設置され、本種の保全対策に関する基本方針が示された。このため I 期線施工時には、保全対策の基本方針に従い、建設予定地周辺へのオオヒシクイの渡来状況調査や、橋梁工事における騒音・振動等の影響検討が適宜実施されており、これらは四車線化事業においても取り組みが必要な事項である。

本稿は、四車線化事業の本格着手に先立ち実施したオオヒシクイの生息実態調査について紹介し、今後の工事実施における保全対策の展望を述べるものである。

2. 四車線化事業に先立つオオヒシクイ生息実態調査

2-1 オオヒシクイ生息実態調査実施の経緯

I 期線の施工にあたり、当該区間では昼夜間日周行動調査、フィールドサイン調査、工事中のモニタリング調査（工事箇所周辺へのオオヒシクイの飛翔の有無を確認し、工事現場方向へ飛翔した場合に工事現場へ通報）、工事影響有無調査（作業時の騒音・振動レベルの確認）等が実施されてきた。

しかしながら、これらの調査は I 期線が供用した平成 26 年度までの実施であり、平成 27 年度以降の継続調査は実施されていない。このため、四車線化事業の本格着手に先立ち、オオヒシクイの生息状況の変化等を確認する目的で、令和元年度より、昼間日周行動調査、フィールドサイン調査を実施している。

2-2 今回調査対象箇所

今回調査対象箇所を図-1 に示す。圏央道から離れた稲波地区は、オオヒシクイが日常的に利用している箇所である。一方、圏央道に近接している引舟地区は、過年度委員会において稲波地区で生息に支障する事象が発生した場合、採餌場所になると想定された箇所である。



図-1 今回調査対象箇所

2-3 今回調査方法

a) 昼間日周行動調査

昼間日周行動調査として、稲波地区でのオオヒシクイの渡来・渡去の確認、引舟地区への飛来の有無を把握することを目的とした定点観察を実施した。なお、オオヒシクイの渡来状況の把握のために地元でオオヒシクイ

表-1 昼間日周行動調査の概要

調査範囲	調査方法	調査期間・回数・時間
稲波地区 引舟地区	稲波地区において、定点観察を行い、オオヒシクイ等の確認位置、個体数、群れ、全体の行動、採餌状況等の記録を行った。 引舟地区においては、同日の午前・午後巡回を行い、オオヒシクイ等の飛来の有無を確認した。	オオヒシクイ渡来時期の 12 月から 2 月までの、ひと月あたり連続 2 日間を 1 回の調査とし、期間中に 3 回調査を行った。 調査時間は 8:30 ~ 16:30 とした。

の観察をしている江戸崎雁の郷友の会への聞き取りも行っている。

b) フィールドサイン調査

フィールドサイン調査として、稲波地区では渡去後に利用痕跡の確認を行った。引舟地区では、ガン類その他の利用痕跡を確認し、オオヒシクイの利用の有無を把握することを目的として現地踏査による確認調査を実施した。

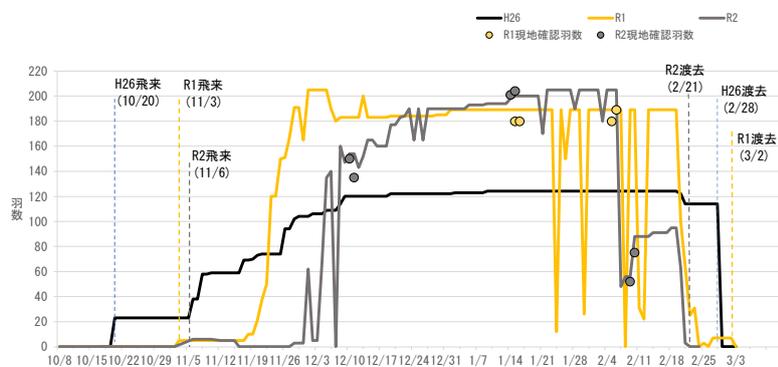
表-2 フィールドサイン調査の概要

調査範囲	調査方法	調査期間・回数・時間
稲波地区 引舟地区	稲波地区において、オオヒシクイ渡去後のみオオヒシクイの利用痕跡を確認した。 引舟地区においては、オオヒシクイ等の利用痕跡となる糞、食痕、足跡、羽根などの確認調査を実施した。	オオヒシクイ渡来時期の12月から渡去後の3月までのひと月あたり2日間を1回の調査とし、期間中に3回調査を行った。

2-4 今回調査結果

a) 昼間日周行動調査

昼間日周行動調査の結果及び江戸崎雁の郷友の会からの提供資料によると、令和元年度に確認されたオオヒシクイの最大羽数は205羽、令和2年度の最大羽数も205羽以上となっており、平成26年度の124羽と比べて渡来羽数は増加の傾向にあることを確認した。



出典：江戸崎雁の郷友の会提供資料及び下記参考文献より作成

図-2 H26 及び R1~R2 年度 オオヒシクイ渡来状況の比較

b) フィールドサイン調査

フィールドサイン調査の結果、稲波地区ではオオヒシクイの利用痕跡から利用位置や利用頻度等を確認した。一方で、引舟地区では過去2ヶ年の調査でオオヒシクイの利用痕跡は確認されていない。

c) まとめ

令和元年度、令和2年度の調査結果は、平成26年度までの調査結果と比較して羽数は増加傾向にあることを確認した。また、オオヒシクイの渡来場所や利用位置や利用頻度等の生息実態に大きな変化は見られないことを確認した。

I期線の供用後も渡来羽数が増加し利用形態に変化はなく、事業の影響は生じていないと考えられる。

3. 今後の展望

今後、圏央道の四車線化事業を進めるに際しては、I期線時同様にオオヒシクイの生息環境保全に配慮することが求められている。直近2ヶ年の生息実態調査によって、圏央道周辺におけるオオヒシクイの生息実態はI期線時からほとんど変化がないことを確認した。従って、四車線化事業の橋梁工事を行う上で必要な環境保全対策に関し、I期線時に得られている知見を活用できると考える。今後は、I期線時の対策実績・評価結果を参考にすると共に、専門家のご意見を適宜頂きながら、オオヒシクイの生息環境に影響を及ぼすことなく、工事を実施して参りたい。

参考文献

・国土技術政策総合研究所資料 第906号（平成28年3月 国土交通省 国土技術政策総合研究所）

キーワード 橋梁工事, ガン類, 生息環境調査

連絡先 〒311-4152 茨城県水戸市河和田1丁目1814番1号 東日本高速道路(株) 関東支社 水戸工事事務所 TEL 029-253-3000